

麻生区区民会議 第7回専門部会『麻生区の魅力の発掘・発信検討部会』議事要旨

- 1 開催日時：平成29年8月8日（火）午後3時～午後5時
- 2 開催場所：麻生区役所 第4会議室
- 3 出席者：[専門部会委員] 安藤和彦委員、石井よし子委員、菅野明委員、鈴木昭弘委員、高倉秀敏委員（副部会長）、長岡さや委員、橋本周委員、林恵美委員（部会長、全体会副委員長）、吉垣君子委員
（欠席）松田基久乃委員
[事務局] 企画課 安藤課長、福島係長、鈴木
[コンサルタント] 中島、永野

4 傍聴者：0名

5 議 題：

1. 調査・審議課題の検討について

(1) これまでの審議内容の振り返り

- ・『麻生区の魅力の発掘・発信検討部会』におけるこれまでの審議内容を振り返るとともに、合意事項についての再確認を行った。
- ・全体会で出された「麻生区は他の地域と比べて安全・安心なまちであり、このことも麻生区の魅力としてはどうか。」という意見につき、安全・安心なまちであることは3つの魅力の前提であるとするという合意を得た。

(2) 情報提供

- ・事務局より参考資料として流山ウェルカムガイド、みやまえハテナノタネを配布するとともに、多摩区生田緑地PR動画、麻生区早野地区PR動画を上映した。

(3) 調査審議課題の検討

1) 麻生区の発信すべき魅力について

- ・コンサルよりまちのイメージ（案）に関する説明を行った。
- ・委員の意見を基に、まちのイメージ（案）をブラッシュアップしていくこととした。
- ・委員が魅力と考える麻生区の魅力と言える体験型イベントの紹介を行った。

【主な意見】

- ・都心から近い緑、原風景が残っているという、「都心から近い」ということを加えてはどうか。
- ・緑をたくさん楽しむことができるといっても、どこにでも緑があるわけでもなく、ここでの緑は公園の緑とは異なるのではないか。原風景を指していると思う。地元では谷戸と表現する。谷戸が残る原風景といった表現はどうか。
- ・自然と農に関しては、里の風景が見られるという表現も良いのではないか。

- ・自然と農に関しては、見るだけでなく体験できるという視点を盛り込んでも良いのではないか。
- ・芸術に関しては、お芝居、バレエ、音楽など鑑賞するタイプが列記されており、受動的な印象を受けるので、絵を描く、作陶、俳句などといった能動的、積極的な行動ができる文章を加えてほしい。本物の芸術家がいるということと、自分も参加できる、体験できるということが重要であると思う。
- ・芸術のまちとなっているが、自分も参加できるという点で、文化を加え、文化・芸術のまちとしてはどうか。
- ・市民活動にボランティアが含まれていることを分かりやすくするために、市民活動の箇所にボランティアも追加してはどうか。
- ・イメージであるから包括的な表現で良く、あまり具体例を並べるときりが無いと思う。

【提示された体験型イベント】

- ・黒川青少年野外活動センターでの体験型野外活動（調理や宿泊）
- ・昭和音楽大学での子ども向け体験型イベント（コンサート、楽器体験、指揮者体験）
- ・文化協会の体験型イベント（七草の体験など）
- ・里山フォーラム in 麻生の体験型イベント（からむしの体験など）
- ・日本映画大学での映画を撮る体験イベント
- ・田園調布大学の子ども参加イベント（ミニたまゆり）
- ・アートセンターでのイベント
- ・JA セレサ川崎の農業まつり
- ・禅寺丸柿の柿もぎ体験
- ・桜まつり
- ・片平地域での乗馬体験

2) 発信方法について

- ・情報提供を基に、各発信方法について確認した。発信方法の決定については、子育てフェスタでの調査結果を踏まえて決定することとした。

【主な意見】

- ・PR動画を作っても、発信できる装置が少ないと思う。
- ・PR動画は作成した後で、見せるという部分のハードルが高いのではないか。
- ・紙媒体で発信するのであれば、あまり大きくないサイズの方が良いと思う。
- ・発信方法の検討にあたっては、自分で情報に到達できない（調べない）部分をどうやって伝えるかを意識する必要があると思う。

3) 子育てフェスタでの調査内容について

- ・調査時間は、調査対象者が子連れであることを考慮し、短時間で済むものとする事とした。
- ・調査項目については、大枠としては次の流れとし、事務局で質問案を作成し、次回部会で詳細な内容を固める事とした。

- ① 麻生の3つの魅力を知っているか（どう感じるか）
- ② 魅力のイベントを知る機会があるか。また、参加したいか。
- ③ どのような媒体で情報を得ているか。得やすい媒体は何か。
- ④ その媒体がどこにあれば、触れる機会が多いか。また、普段どこに集まっているか。

【主な意見】

- ・子育てフェスタにくる子連れ世帯は催し物を見に来ているため、あまり長く拘束することはできない。記述してもらうような形式は厳しいのではないか。
- ・質問項目も絞る必要があるのではないか。
- ・ヒアリングはポストイットをスタッフで貼る方式や○を付けるだけで済むアンケート方式など、時間のかからない形式が良いと思う。
- ・聞き方としては大きくくりで聞いて、あまり細分化しない方が良いのではないか。
- ・子供に体験させたいかを聞くことも重要ではないか。
- ・まずは、魅力を知っているかを確認する必要がある。
- ・どうやったら伝わるかを把握する必要がある。
- ・子育てフェスタのアンケートと同じようなことを聞いても意味がないのではないか。
- ・子育てフェスタのアンケートとは導入部分は被るかもしれないが趣旨が異なるため問題は無いのではないか。
- ・質問を受けることもあると思うので、資料の準備が必要であるし、聞く方も勉強する必要があると思う。
- ・聞き手によってばらつきが出ると良くないので、質問に対応する際のマニュアルのような一枚紙があると良いのではないか。
- ・写真やマップなどをヒアリング実施場所に貼っておくと良いのではないか。

2. その他

- ・次回は9月12日（火）に開催することとし、子育てフェスタ（9月16日（土））の前日準備を9月15日13時半より第5会議室で行うことを決定した。

以 上